

今年度第2回目の放射線安全管理セミナーを平成29年9月2日(土)かつの厚生病院の血管撮影室で開催した。

今年度は、「IVRの被ばくに対応するために《をテーマに行われた。初めての試みではあったが、実践に即した線量測定を行うため、同セミナーを机上研修と撮影装置を用いた実技研修を2回に分け実施した。第1回目の5月には机上の研修として、血管撮影等における医師・スタッフ等の被ばく線量測定の必要性や測定法・データ整理・空間線量分布図の作成法などを行っている。今回の研修では、被ばく線量の測定を実際に行い、撮影室の空間線量分布図を作成・表示させ、スタッフ等にこれを提供することにより被ばくへの意識を高めてもらうものであった。

当日、かつの厚生病院には、28吊もの会員が集まり委員会としては、ほっとした思いがあった。研修にあたり佐藤均会員が講師となり、実施説明が血管撮影室・操作室で行われた。引き続き、準備された線量測定器・ファントムを用いて線量測定を行った。患者照射基準点の測定を行い、被写体の体厚変化を想定し、アクリルファントムの厚さが変えられ、変更毎に散乱線量が変化する事を確認した。また2種類の線量計(電離箱線量計・半導体線量計)の構造の違いから、後方散乱線の影響による表示値の違いも併せて研修した。撮影室での空間線量分布図作成のための測定は時間を要したものの、事前に測定位置が床に表示され、委員・スタッフ以外の会員の率先的な協力もありスムーズに行われた。あくまでも臨床使用する血管撮影室で行われた研修のため、窮屈さを感じた参加者もいたと思う。休憩を挟み、場所を講堂に移し、線量分布図の作成を行った。5月の研修時より改善・進化されたソフト等は操作しやすく誰でも即応できるものとなっていた。講師の今日までの苦労がここでも感じる事ができた。非常に簡便に空間線量分布図が作成出来るため、是非とも各施設で実践提示してもらいたいものである。

今回の研修にて、今年度の当委員会のセミナーは終了するが、盛況裏に終えたと考えている。講師となり準備をしていただいた秋田厚生医療センターの佐藤・吉田両会員。かつの厚生病院からは血管撮影室及び講堂を快く施設提供をしていただいた。湯瀬会員をはじめ、かつの厚生病院の会員の方々に感謝している。また県中央支部・県南支部からも参加していただいた。特に県北支部からは川又副会長・畠山支部長・田中元支部長の参加もあり、大勢の参加者によるセミナーは「今、県北が熱い！《と感じられるものとなった。

記 齊藤 龍

晴

